

三豊工業高校（観音寺市大野原町、高橋輝章校長）の生徒が学校近くにある一の宮公園（同市豊浜町）の時計塔の鐘の修理をボランティアで実施した。修理は3年前に続いて2回目で、経年劣化や潮風の影響で再び壊れたとみられ、修理後の公園には再び鐘の音が響いている。

「恋人の聖地」 鐘の音再び

2000年にオープンした公園は「恋人の聖地」にも選ばれており、芝生広場の時計塔「一の宮ドリームタワー」は、そのシンボリックな存在。7月20日に時計塔越しに夕日が沈むよう設計され、「その時、願いを込めて鐘を鳴らせば、夢がかなう」とのロマンチックな言い伝えがある。

時計塔は、タワーの下にあるハンドルを回すと、ワイヤでつながれたハンマーが鐘を打ち鳴らす仕組み。前回はハンマー部分のワイヤが切れて鳴らなくなったが、今回はハンドル部分のワイヤが切れ、ワイヤとクラック機構をつなぐ金属部品もさびて朽ちていた。

1年ほど前から壊れた状態だったため、見かねた住民が、養護学校へ福祉器具を手作りして届ける活動などに取り組みむ同校に相談し、再び協力が得られる

ことになった。修理は機械技術部の2、3年生7人が担当。下調べで原因を特定した後、壊れた金属部品を旋盤で削りだすなどして準備し、作業に備えた。

三豊工高生、部品作り修理

一の宮公園（観音寺）の時計塔

13日の修理当日は、市大豊商工会青年部（清水秀洋部長）が準備した足場を使い、ワイヤと部品をつなぎ直し、鐘がよく鳴るように微調整を繰り返しながら1時間ほどで終えた。機械科2年の奈尾樹さん（16）は「微調整に苦労したが、地域のシンボルの修理に関わることができ、達成感がある。大きなものが細かい部品で作られていることも学べ、ものづくりの勉強にもなった」と振り返った。

相談した住民は「三豊工高は来年統合されるが、技術系高校として頼りになる存在。統合後もよき伝統を引き継ぎ、地域貢献活動を続けてほしい」と話していた。



一の宮ドリームタワーの鐘を修理する三豊工高の生徒たち＝観音寺市豊浜町、一の宮公園